

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 6 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、発生の確認と防除指導方よろしくお願ひします。

記

1 情報の内容 サトイモ疫病の早期発見と防除の徹底について

2 発生経過

令和 3 年 7 月 20 日、本年の県内におけるサトイモ疫病の初発生（写真 1）を確認した（昨年は 7 月 9 日初発確認）。本病は、平成 27 年に県内での発病が初めて確認され、平成 28 年以降発生地域は徐々に拡大している。

3 被害の特徴と発生生態

- (1) 病原菌はサトイモ属にのみ感染し、葉では比較的大きな褐色楕円形の輪紋病斑が発生する。葉柄では、はじめシミ状の黒褐色斑が見られ、病斑が拡大するとこの部分から折れて葉が垂れ下がる。発病後、雨が続き多発すると茎葉は短期間に腐敗消失する。イモの腐敗は少ないが、発病時期が早まると茎葉の消失によるイモの肥大不良により大きな減収を招く。
- (2) 高温（25℃以上）で連続した降雨（梅雨後期、秋雨、台風の接近による強風雨など）で発病しやすい。好適条件下では感染力が強く、短期間に発生地域が拡大するなど、他の品種の疫病の被害に比べて感染スピードが速い。
- (3) 第一次伝染源は、土壌中の残渣や種芋の可能性が高く、第二次伝染は、葉や葉柄の病斑上に形成される病原菌（遊走子）の風雨による飛散やうね間の水を介しての伝染と推察される。
- (4) 発病の拡大は、気象条件（台風等による強風雨や夏場の連続降雨）が整うと予想以上に広範囲へと及ぶので、未発生地域でも発病には十分注意する。

4 当面の防除対策

- (1) 圃場をこまめに観察し、葉の病徴の有無を確認する。特に発病は中位葉から下位葉で多く認められ、圃場の周辺箇所からの発病が多いので注意する。
- (2) 発病葉などは早急に除去し、圃場外に持ち出す。
- (3) ジーファイン水和剤、ペンコゼブ水和剤による定期的な予防散布を行い、発病が認められた圃場では、直ちにダイナモ顆粒水和剤、アミスター20フロアブルを散布する。なお、サトイモの茎葉は水をはじきやすく薬剤が付着しにくいので、展着剤を必ず加用する。
- (4) 台風の通過後に茎葉が損傷した場合にも発病茎葉を圃場外に持ち出し（袋に入れて密閉）、圃場内の菌密度を下げ、直ちに治療剤であるダイナモ顆粒水和剤、アミスター20フロアブルを散布する（表 1）。
- (5) サトイモ疫病の防除体系は表 2 を参照。



写真 1 今回確認した葉の症状（初発）

表1 サトイモ疫病に対して使用できる殺菌剤

薬剤名	希釈倍数	10a当たり使用液量	使用時期	本剤の使用回数
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500ℓ	収穫前日まで	-(制限なし)
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300ℓ	収穫14日前まで	3回以内
ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	100～300ℓ	収穫21日前まで	3回以内
ペンコゼブ水和剤	500倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	2回以内

表2 サトイモ疫病の防除体系モデル

	6月	7月	8月	9月									
【防除薬剤】	梅雨入り前 初発警戒期 梅雨明け後		蔓延警戒期 (発生増加注意) 収穫期										
① ジーファイン水和剤	(梅雨入り前のダニ剤混用散布)												
② ペンコゼブ水和剤	(梅雨入り前の殺菌剤単用散布)												
ダイナモ顆粒水和剤													
アミスター20フロアブル													
	【使用時期別の防除薬剤と注意点】												
	○梅雨入り前または梅雨明け後												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>散布方法 \ 時期</th> <th>梅雨入り前</th> <th>梅雨明け後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①ダニ剤混用散布</td> <td>ペンコゼブ</td> <td>ジーファイン</td> </tr> <tr> <td>②単用散布</td> <td>ジーファイン</td> <td>ペンコゼブ</td> </tr> </tbody> </table>			散布方法 \ 時期	梅雨入り前	梅雨明け後	①ダニ剤混用散布	ペンコゼブ	ジーファイン	②単用散布	ジーファイン	ペンコゼブ	
散布方法 \ 時期	梅雨入り前	梅雨明け後											
①ダニ剤混用散布	ペンコゼブ	ジーファイン											
②単用散布	ジーファイン	ペンコゼブ											
	○初発後 発病葉等を除去し、ダイナモ、次いでアミスターを散布												
	○降雨が続くことによる多発前 応急的にダイナモを連続散布(但し、可能な限り「蔓延警戒期」まで温存すること)												
				○発生増加前 ペンコゼブを散布									
				○台風通過後 ダイナモ、次いでアミスターを散布									
				○収穫前 軟腐病の予防対策も兼ねて ジーファインを散布									